



2面・3面 巡回公演だより／園からの声／園からのおたより
4面 制作だより／日本芸術文化振興会助成事業報告／新人紹介／活動記録 ほか

http://www.suginoko.org/
E-mail: support@suginoko.org



謹賀新年

すぎのこ温故知新

理事長 小澤 幸雄

明けましておめでとうございます。

皆様にとりまして本年が輝かしい発展の年となりますよう心から祈念申し上げます。

すぎのこも酉年らしく大きく羽ばたきたいもの！と念じております。

すぎのこは今年8月、創立53年目を迎えます。創立は東京オリンピックが開催された昭和39年です。

すぎのこ創立者小澤明は、長兄が主宰する「劇団やまいも」が出演した、NHK連続テレビ人形劇「チロリン村とくるみの木」で、人形美術、人形操作、人形演技者指導等を担っていたが「声優の声に合わせての当て振り、テレビカメラのフレームに合わせた小さな演技、観客の反応がリアルタイムで得られないテレビ人形劇」では、優秀な人形劇俳優は育たない！良い芝居は出来ない！との思いから、8年続いたチロリン村放送終了と同時にテレビ人形劇界と決別し、ナマの舞台を求めて「劇団杉の子」を旗揚げした。

（チロリン村は丸8年、812回の長寿番組で、昭和39年4月3日に放送終了。そのあたりの

テレビ人形劇事情は、すぎのこ創立20周年記念出版「初期テレビ人形劇」小澤明・岡崎粧男編に詳述）。

「どんな離島山間僻地の子ども達にもナマの舞台の感動を届ける！」を旗印に、保育園幼稚園での全国巡回公演実現を目指し粉骨砕身している兄の姿に共鳴し、翌年4月には、同じく長兄の劇団やまいもで事務局・美術制作部門を担当していた私も、すぎのこに参加することになった。

参加して分かった事は、全国の保育園幼稚園を巡回する公演活動が、経済的にも肉体的にもいかに過酷な環境のもとで行われ「好きだから」だけでは決して持続出来ない、強い使命感が求められる仕事だったと言う事だ。

「日本の未来を担う子ども達のために、こんなに一生懸命仕事をしている若者達や集団が、持続しにくい環境にあると言う事は問題だ！劇団員のみならず、観客や、市民や、企業や、自治体や、行政を、一体となって巻き込んで行ける仕組みにして行かなければ！」と言って「公益法人」設立を、故栗原壽三男氏（義父）が示唆してくれた。

昭和55年5月、念願叶って文部省から「財団法人劇団すぎのこ」として公益法人認可を得、活動を開始し、これから、という昭和59年、創立20周年を目前に、小澤明は46歳の若さで帰ら

ぬ人となり、そのあとを私が引継いだ。

平成26年の創立50周年には、全国巡回公演は延べ7万9千余回、観客動員数は延べ8百2万余人を越え、今も毎年千4百回以上の公演を続けている。

また、子どもの、子どもによる、子どものための国際交流では「国際わんぱくクラブ」を日本（婦恋村・富士山）、中国（内蒙古自治区）、韓国（漢江流域）で開催。「中国少年友好芸術団」招聘事業では、日本各地での公演と子ども同士の交流など、アジアを主体とした招聘公演や海外公演を重ねて現在に至っている。

「公益法人」と言う、この恵まれた環境を更に活かし、すぎのこが理想とする子ども像「わんぱく（心身が健康で、好奇心が強く、行動力に溢れ、知恵を磨く、心の優しい子）」を育成し、定款の目的で謳う「芸術文化活動により、ゆたかな情操の涵養と、創造的で国際感覚あふれる人間力を醸成し、より良い社会の形成と芸術文化の振興に寄与」して行く所存です。

皆様と共に歩んで行けるならばこの上ない幸せです。
年の初めに、創立の原点に立ち、俯瞰し仰視し、見つめ直し、新たな視点で進みたい。本年もこれまで同様、ご指導ご鞭撻を
お願い致します。

巡回公演だより

そっくりのくりのき班

石山 和佳

「そっくりのくりのき」の舞台はくりくり山。くりくり山では草花や鳥、虫の鳴き声から、季節の移り変わりが見られます。くりの木さんとコンちゃんは今全身で季節を感じながら、くりくり山で暮らしています。

さて、私たちは毎日あっちへこっちへ車で移動しているのですが、移動中の車内から見る景色からも季節の移ろいを感じています。1学期に回った新潟県や北陸地方では、水が張られ鏡のようだった田んぼに青々とした稲が伸びていく様子を、観察日記をつけていくような気持ちで眺めたり、2学期に回った東北地方では、木々が鮮やかに色づいていく様子や白い雪とのコントラスト、枯れ木の山の輪郭が透けている様子が目を楽しませてくれたり……。そして3学期は東海・近畿、九州地方を回り



ます。どんな景色が見られるか、コンちゃんのように全身で季節を感じられたらいいと思います。

おだんごばん班

星野 翼

おだんごばん班は昨年4月に公演が始まり、北海道、九州を回りました。年が明け、今度は関東の子ども達に人形劇を届けます！

「おだんごばん」はとても楽しくて愉快なお話です。私も大好きな作品です。この楽しいお話を人形劇にして子ども達に観せる。どうすれば子ども達も「おだんごばん」のお話を好きになってくれるのか、常に稽古に励む毎日です。



新しくすぎのこに入団した新人さんにも、子ども達に人形劇を届ける楽しさを知りながら旅を楽しんでももらいたいです！そのためにも新人の時に感じた思い、「初心を忘れず」が大事なことだと思っています。疲れて自分のことしか考えられなくなる日も時にはあるかもしれませんが、その時、子ども達のことを思い出せば、そんなこともなくなると思っています。上演を観てくれるすべての子ども

も達が笑顔になる、最後に「すこく楽しかったよ」と言ってもらえる、そんな人形劇を目標に、これからも旅を続けて行きたいです。

わらしべ長者班

吉田 薫

私たちの班は旅の途中、米どころの地域を回っていると、田んぼを見かけては「あ、わらしべいっばいあるねー」なんて言いながら日本の昔からの風景に思いをはせています。「わらしべ」とは、稲の茎の部分。愛すべき日本の一部だと思っています。

そんなわらしべが出てくるこの作品。人形や小道具以外にも、日本を感じるものが出来ます。よく聞いてみると、「わらしべ長者」の主人公の正吉の「しちまつただあ」「しとすべえ」だったり、おばあさんの「だけんどお」と、所々で訛っているセリフがあるのです。もしかしたら、おじいちゃん、おばあちゃんと離れて暮らしている子ども達にとつて、あまり聞く機会がないかもしれません。田んぼや山、川などの風景と同じで、言葉の「訛り」や「方言」も



わらしべ長者

■天泉こども園(福島県須賀川市)
素直で心の優しい正吉の姿に、観ている心が温かくなりました。ほのぼのとした内容のお話ですが、所々に笑いや驚きがあり、子ども達がどんどん引き込まれていく姿が見られました。また、一瞬で変わる背景や、とんぼや馬のリアルな動きにも目をキラキラさせながら見入っていました。きっと子ども達一人ひとりの心に残る貴重な思い出となることと思います。

そっくりのくりのき

■寺田保育所(岩手県八幡平市)
オバケのシーンが一番盛り上がりました。とても怖がりの女の子がいて、今にも泣きそうになりながらも、少し大きいお兄さんの背中にもびったりくっついて「怖い、でも見たい」という思いの姿がそこにありました。



▲島根県ひなし保育園より

いつもならすぐに担任が傍に行くのですが、子どもが自分で気持



▲福島県天泉こども園より



▲佐賀県東脊振幼稚園より

ちをおさえ、少し成長した姿を見ることができた人形劇でした。

■白岩保育所(岩手県遠野市)
物語の身を子ども達がよく観ていて、応援したり、悲しさを理解している様子が見られました。鳥の音が笛の音だったり、ハンカチや手袋人形を作った演じて見せるなど、手作り感が感じられ、温かさがありました。背景も美しく、場面転換が楽しかったです。

■須川保育園(長崎県南島原市)
子ども達の目がキラキラして集中して観ているのが印象に残りました。「おだんごばん」の手遊びも子ども達がとても楽しそうにしているのを見て「楽しいんだなァ」と感じる事ができ、こちらも嬉しくなりました。

おだんごばん

■勇崎幼稚園(岡山県倉敷市)
今年の運動会で全園児が「ももたろう」の表現をしたので、とても親しみがありました。子ども達の反応もとてもよかったです。ももたろうの歌も思わず一緒に歌ってしまいくらいでした。

ももたろう

■比津ヶ丘保育園(島根県松江市)
セットがとても立派で驚きました。人形の動きとそれを操る人の動きがとても興味深く、勉強になりました。

子ども達が身動きせず、じっと観つめる姿を見て、どんどん舞台に引き込まれていくのを感じました。本物の人形劇を観ることができてよい刺激になったと思います。

日本の風景の一つだと思えます。目だけでなく、耳でも日本を感じてもらえると嬉しいのです。

伝承や語り継ぐ何かを次に伝えていくというのは難しいですが、物語の語り手の一人として、これからも届けたい言葉や思いを大切にできたらと、改めて思うのです。

ももたろう班

小久保 祐奈

ももたろう班に配属されてから早いもので、約半年が過ぎました。「ももたろう」は日本昔話の中でも代表作とも言える作品ですが、中でも、「ももたろう」の歌は誰もが聞いたことがあると思います。♪ももたろさんももたろさん お腰につけたきび団子 一つわたしにくださいな♪

今回おばあちゃん役ということもあって、歌にも出てくるきび団子を、実際に作ってみました。

きび粉ときび砂糖、大豆(きな粉の素)、水を混ぜて練って蒸して…。簡単そう得意に手間がかかりました。できたきび団子は少し苦味もありましたが、ほんのり甘く、おいしくできました。

昔は甘いものが少なかったのですが、とても貴重でご馳走だったろうと思います。

神様から授かったももたろうが大きくなって鬼退治に行く時、このきび団子をおばあちゃんはどう



な気持ちで手渡したのか…。おばあちゃんが作った元氣と勇氣が湧いてくるきび団子。小さい団子にたくさんの想いが詰まっているんだなあと感じました。

このつぎなあとに班

白石 高章

あけましておめでとうございませす。昨秋は、まだ暑さの残る九州南部を1か月間に渡り公演してまいりました。宮崎ではチキン南蛮をほおばり、鹿児島では黒豚とんかつや鰻に舌鼓を打ち、大分ではとり天、熊本では馬刺しに、天草の海鮮丼やたこ焼き等々、おいしいものばかりで、とても充実した旅を過ごさせていただきました。



もちろん舞台にも真剣に取り組みました。このお話は狸がおじいさんに食べ物をもらおうといういろんなものに化け、「この次は何に化けてくるんだらう?」と思わず見入ってしまう、繰り返しのある楽しいお話です。

思い返せば10年前、私がオールドルキーとして劇団に入団して間もなく、この狸の人形を持ちながら「初めまして、今日は!」と

明るい笑顔で元氣よく挨拶してくれた年下の女性の先輩がいました。それが今の家内です。今では4人の「子狸」にも恵まれ、家族6人賑やかに暮らしております。

この人形劇を見た子ども達も、大人になって「あ、このお話知ってる!」と思いついてくれたらうれしい限りです。今年も様々な「縁」を大切に頑張っていきたいと思えます。

ねずみの嫁入り班

下村 あきら

新年明けましておめでとうございませす。今年も全国の子ども達との出会いを楽しみに、ナマの人形劇をお届けしたいと思えます。

すぎのこは、今年創立53年目を迎えますが、創立当初から「どの子にもナマの舞台の感動を!」をテーマとして、北海道から沖縄まで巡回公演を続けています。ナマの舞台とは、台詞を録音して、それに合わせて人形を動かすのではなく、人形操作をしながら、人形劇俳優が台詞をしゃべるのです。なぜ、そうするのか…。同じ作品を上演しても、毎回、子ども達の反応は違います。同じ園で上演しても、観劇する年齢によっても反応が違います。その時の、その瞬間の人形劇を通して観ている子ども達とのキャッチボールが大切で、一方通行ではないことが、ナマの舞台の楽しさでもあり、すぎのこが大切にしていることでもあります。

先日、上演した埼玉県日高市の保育園から届いたアンケートに、「機械に全て頼ることなく、肉声での演出、温かさが伝わる演技で、大人でも心がホッコリしました!」

園からのおたより

青森県平川市/大坊保育園 小田切結子先生

このたびは自園で人形劇公演をしていただき、さらに様々な面でご配慮いただき、ありがとうございました。

子ども達はお兄さん、お姉さんの素敵な声に引き込まれ、お話の世界にすっかりのめりこんで観覧している様子でした。くりの木が嵐に巻き込まれていなくなってしまう場面では、泣いているお姉さんの歌声を聞いて、涙が出たという子もいました。お話の中に出てくるおばけが怖かったという子もいましたが、最後に一緒に遊んでくれたから怖くない!面白かった!という子、コンちゃん、コン太君がかわいいという子もたくさんいました。

素敵なお話を演じてくださった、お兄さん、お姉さんにお礼をしたい!と年長児が絵を描いたので送らせていただきます。



▲青森県大坊保育園より

青森県西津軽郡深浦町/めぐみ子ども園 渋谷明子園長先生

今年も、楽しいお話をお借りありがとうございました。

園内にポスターを貼りますと、その日を指折り数えていた子ども達です。

当日も、楽しんで観る子、ちょっと怖い場面にドキドキした子、くりの木がとばされ泣き出した子…。10人いれば10人みんな違った思いの中で、同じお話を喜んで共有できていたように感じました。

子ども園の子ども達だけでなく、デイサービス、グループホームの方々も大変喜んでいました。子どもとお年寄りの方々も場を共有することができ、こうした機会の大切さも、日々感じております。

翌日から、子ども達は教えていただいた人形を作り、人形劇ごっこが盛んに行われています。こうした機会も、保育の中で大切だと思っています。全国各地で素晴らしいお話が届けられ、子ども達の豊かな感性が育てられることを願っています。



▲青森県めぐみ子ども園より

ほんわか劇場

わた よりこ

新しい年になりました。2017年度「ほんわか劇場新作は「へっこき よめさん」です。

人は神様からそれぞれ特別なものをもらって生まれてきます。その特別なものが、その人にとって、

…という感想をいただきました。ありがたいお言葉です。これからも、「どの子にもナマの舞台の感動を!」お届けできるように精進してまいります。

「悩み」となることも多くあります。このお話の主人公はそれが、ものすごい「屁(おなら)」です。へっこきよめさんは、屁で、困った人を助け、人と人とのつながりを深め、たくましく、そして楽しく生きていきます。

この民話は、宮城県に伝わるお話ですが、厳しい自然と向き合いながら、私たちの祖先はそれぞれの個性を大事にし、助け合い生きてきたのでしょう。

そしてその日々の生活には、笑いがあり、それが生きる糧となっていたのだと思います。



みなさん、今年は今まで生きてきた中で、一番笑う年にしませんか!!

制作をよ

また新しい一年が始まりました。今年には十二支の十番目の動物、酉です。このトリとは鶏のことだそうです。鶏は夜明け一番に鳴くため、縁起が良いとされています。昨年もいろいろなことがありました。4月には熊本を中心に九州

で大きな震災がありました。熊本にはいつもご観劇くださっている幼稚園・保育園さま、そしてすぎのこと所縁のある方々も多く、劇団員一同心を痛めました。

現在、私たちを取り巻く社会情勢は変化し続け、解決すべき課題は、政治問題、被災地復興、事件、戦争など枚挙にいとまがありません。ですが、個人の力なんて取るに足らないもの。ですからまずは、

自分の周りにいる人達を笑顔にする。幸せにする。一つ一つの想いや行動は些細なものであっても、その輪が広がっていけば何かが変わるのではないかと思います。新年を迎え、より一層その気持ち強く持つて行動していく所存です。すぎのこに関わってください。すべての皆様にとって、今年一年が幸多き年となりますようお祈り申し上げます。(福島 亜紀)

独立行政法人 日本芸術文化振興会助成事業



「ももたろう」助成金交付に関して

最新作「ももたろう」の作品は、独立行政法人日本芸術文化振興会「平成28年度芸術文化振興基金」の助成対象事業として、1学期は九州地方を94公演行い、2学期は中国地方で142公演を行います。

た。3学期には四国地方へまいります。新年度からは北海道や九州地方へもうかがう予定ですので、人形劇を見たことのない施設の方々、ぜひこの機会に、すぎのこ人形劇の「ナマの舞台の感動」を子ども達に体験させてあげてください。皆様からのお問い合わせをお持ちしております。

「ももたろう」巡回予定一覧

- 平成28年度 3学期四国地方
 - 平成29年度 1学期北海道、2学期九州地方、3学期関東地方
 - 平成30年度 1学期北陸地方、2学期東北地方、3学期東海・近畿地方
 - 平成31年度 1学期甲信越地方、2学期関東地方・沖縄、3学期関東地方
- (下村 明)

新人紹介



池田 歩

昨年10月に研究生としてすぎのこに入団しました。まだまだ未熟者ではありますが、名前のように一歩、前に向かって歩いていき、一人でも多くの子ども達を笑顔にさせられる俳優になれるように頑張りたいです。



関 多泓

昨年10月に入団いたしました。現在おだんごばんのお手伝いとして、九州を回っています。芝居するのが辛くて逃げていた時期もありましたが、それでもやはり芝居が好きだということに気づいて、人形劇の業界に飛び込みました。この先は逃げずに、好きなことに向かって頑張りたいと思います。ごっごきよろしくお願ひいたします。



石戸谷 光司

昨年10月から、すぎのこ研究生になりました。よろしくお願ひいたします。



柴 思萌

9月から事務局に配属となりました。中国出身です。仕事に慣れないうちは何かとご迷惑をおかけするかとありますが、一生懸命頑張りますので、よろしくお願ひいたします。因みに趣味は山登りです。近いうち飯能近辺の山に登ってみたいと思います。

研修センターのご案内

当財団には、群馬県に日本小型自動車振興会(現財団法人JKA)の補助により建設された「すぎのこ山荘」と、日本宝くじ協会の助成により整備された「わんぱく村」からなる「すぎのこ婦孺研修センター」。埼玉県に日本宝くじ協会の助成により建設された「すぎのこ飯能研修センター(ドリム館)」があります。

いずれの施設も緑ゆたかな自然に恵まれ、大変静かな環境に立地し、音楽や演劇等の芸術文化活動や公益活動にお貸ししています。合宿や研修等で会場をお探しの方は、ぜひご検討ください。(利用目的は原則自由ですが、冠婚葬祭やそれに類する事、営利目的の活動には使用できません)

婦孺村にある「すぎのこ婦孺研修センター」近くには、海拔1240m、周囲2kmに及ぶバラキ湖をはじめ、近隣に日帰り温泉施設「湖畔の湯」やバラキ高原婦孺スキー場等が点在し、年間を通じてレジャーや野外活動の拠点として

ご利用いただける他、敷地内にはテントサイト(シャワー室・トイレ完備の専用洗面棟併設)や雨天でもバーベキューが楽しめる集会棟、アスレチック広場等が整備され、日本キャンプ協会の優良キャンプ場として認定されています。埼玉県飯能市にある「すぎのこ飯能研修センター」は、都心から電車で約一時間程度の場所にありながら閑静で落ち着いた環境に恵まれ、135㎡の多目的フロアの他、和洋研修室を完備しており、研究会や芸術文化活動に広くご利用いただける施設です。また、周辺には飯能の観光スポットとして有名な「天覧山」や「飯能河原」等も徒歩圏内にありますので、利用がてら、ぜひ散策してみてください。各施設の利用可能な期間や時間等、詳細につきましてはお問い合わせください。皆様のご利用を心よりお待ちしております。

お問い合わせ
 婦孺研修センターに関するお問い合わせ
 E-mail/support@suginoko.org
 または03-3984-1239



婦孺研修センター



飯能研修センター

(事務局)
 飯能研修センターに関するお問い合わせ
 E-mail/info@suginoko.org
 または042-971-4121 (創造部)

劇団研究生を募集しています

すぎのこでは、子ども達にナマの舞台の感動を届ける仲間(劇団研究生・人形俳優)を募集しています。全国の幼稚園・保育園や各種イベント会場・劇場などで人形劇の公演活動を通じ、たくさんの方の笑顔に出会えることがこの仕事の魅力です。巡回公演が中心ですので、長期間の出張が可能な方、子ども好き、旅好きの方で興味を持たれた方はぜひ、私達の活動に参加してみませんか。尚、未経験の方は研修・指導を行います。活動内容や条件等、詳しくは左記へご連絡ください。
 E-mail/support@suginoko.org
 または03-3984-1239 (事務局)



活動記録(平成28年10月~12月)

- 12/7 発声講習会開催 於・海星学園(沖縄県中頭郡)
- 12/9 発声講習会開催 於・山田保育園(鹿児島県始良市)
- 12/27 第二学期全国巡回公演終了